

第25回 書籍の紹介・・・知恵を出す職場を作るための実践ノウハウ

工賃向上というのは、ある意味で「知恵の戦い」です。同じ作業時間で少しでも多くのモノ・サービスを生む、あるいは同じモノ・サービスでより大きな利幅を得る、それには「知恵」が必要だからです。

近年話題の「働き方改革」でも、その前提として「生産性向上」がセットになっています。賃金を低下させず、労働時間を短縮するには、生産性の向上が必要になるからです。そしてその「生産性向上」を実現するのは、そこで働く人の知恵です。

だからといって、「☆知恵を出せ☆」とスローガンのようにただ叫んでも、そうそう知恵が出るわけではありません。ほとんどの人は目先の仕事をこなすのに精一杯で、それ以上の知恵を絞る余裕はないし、また、知恵を出すための方法論も学んでいないことが多いからです。そこで日本の大企業では、現場で働く人の知恵を出させるため、その方法論を整理し、また会社の活動として取り組んできました。それがいわゆる改善（カイゼン）活動です。（なお、「カイゼン」と片仮名で書くことがあるのは、日本企業の強さを研究した外国の研究者が、“KAIZEN”という概念を取り上げた言葉が逆輸入されたものでしょう）

今回紹介します『新版 仕事がどンドンうまくいく「カイゼン」の教科書』（吉原靖彦著、KADOKAWA/中経出版）では、「改善活動」について、考え方から具体的な手法まで、豊富な図やツール集とともに説明されています。本メルマガでも、改善活動の考え方については度々ご紹介してきましたが、この本では、コンパクトにまとまっています。

類書に比較しても非常に平易に書かれていますので、実用書であるとともに、利用者さんも巻き込んだ勉強会の教材などにも有用と思います。特に一般企業への就労を目指される方にとっては、企業の考え方になじむことができるでしょう♪。

なお、この本で紹介されているような改善活動は、知恵を出すという結果だけでなく、そこで働く人が対等に意見を出し、議論をするというプロセスにも効用があります。こうしてコミュニケーションを活性化することは、例えばメンタルヘルス対策などなど、職場にとってたくさんの“良いこと”につながります(^O^)